

## R. シュトラウス／13管楽器のためのセレナード 変ホ長調 Op.7

R・シュトラウスの「セレナード」はコンサートの幕開けにふさわしい明朗な気分が漂う音楽である。フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、コントラファゴット1という楽器編成で、単一楽章の10分程度の小品。10代の終わりに作曲され、初演での成功ののち、ドイツ各地で紹介され、作曲家の名声を高める出世作となった。

ソナタ形式で書かれ、クラリネットやファゴットが奏でる対位旋律を伴いながら、オーボエがほのぼのとした第1主題を提示する。それからまもなく、クラリネットとホルンがファゴットの伴奏に支えられて、動きのある第2主題を奏で、それがフルートの楽想へと受け継がれる。第2主題を使った展開部が続き、ホルンが第1主題を吹くところから再現部となる。コーダでは楽器が次第に少なくなっていく、静かに終結する。

白石美雪

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます。